

太白区ママたちの 事故体験談の巻



1. 鍋に入っていたお湯がかかり やけどをした!

寝返り、立ち上がり、歩き始めとこの時期の子どもはどんどん成長し、様々なものに興味を持ちます。熱いから危険!ということが分らずお鍋に手を伸ばしたり、ストーブに触れたり…コンロの上にあった鍋の取っ手を引っ張り、中に入っていたお湯を被ってしまったという事故もあります。

対応 やけどをしたときは流水が氷ですぐに冷やしましょう。服を着たままやけどをした場合は服の上から冷たい水で冷やしましょう!

2. タバコの吸い殻を食べてしまった!

子どもの誤飲事故の原因第1位はタバコです。タバコの誤飲は急性ニコチン中毒を引き起こすことがありとても危険です。タバコを入れていた水を飲んだ場合はニコチンの吸収率がタバコを食べた場合よりも高いと言われています。また、加熱式タバコにもニコチンが含まれているため、誤って口にしないよう注意が必要です。

対応 タバコや灰皿は子どもの手が届かないところで保管しましょう。また、タバコを誤飲した場合には何も飲ませずに吐かせることが有効です。そして、すぐに病院を受診しましょう。

3. 入浴時、お母さんが髪を洗っている 間に子供が浴槽で転んでいた!

普段、お風呂に入る時、子どもの様子を気にかけているかと思えます。しかし、どうしても子どもから目を離してしまうことがあり、その瞬間に子どもがお風呂で溺れていたという事故があります。また、首浮き輪を使用し、目を離している際に溺れていたという事故もあります。

対応 この時期の子どもは、立ち上がりや歩行が不安定です。目を離してしまうときは子どもを浴槽には入れない、子どもの入浴時に無理をして一緒にお母さんの入浴を済ませようとはしないなどの工夫をし、無理のない安心できる環境のなかでお風呂に入るようにしましょう。



4. 抱っこしながらエスカレーターに乗ったら、 靴ひもがエスカレーターに絡み転倒!

子どもを抱っこしていると足元が見えにくいです。靴ひもがほどけていることや足元に障害物があることに気付かず転倒してしまうことがあります。

対応 靴ひもがない靴にする、エスカレーターを使わずエレベーターを利用する、抱っこをするときは必ず子どもの頭に手を添えながら歩くようにするなど少し気を付けることで大きな事故を防ぐことができます。

5. ソファから転落!

3か月位になると手足をバタバタさせて動くようになり、5か月位から寝返りをし始めるようになります。ソファに寝かせていたら、いつのまにか寝返りをして転落していた、ひとり立ちするようになりソファの上でジャンプをしていてヒヤッとしたという経験をしている人が多くいました。

対応 この時期の子どもはできることがどんどん増えていきます。まだ先かなと思っても、ある日突然寝返りをしたり、立ったり、歩き出したりします。ソファには子供を寝かせっぱなしにしないなど子どもの成長を見越した安全な環境を作っていきましょう。

不慮の事故は子どもが亡くなる原因の上位にあります。全国的にみると、不慮の事故による死亡原因は、0歳代では窒息、1～4歳代では、窒息、溺死・溺水が多くなっています。

H30年度 太白区乳幼児の事故実態調査

★6～7人に1人が病院受診が必要な事故を経験していました!

★多かった事故は

0歳代 1位:転落 2位:やけど 3位:転倒

1歳代 1位:やけど 2位:転落 同率:転倒

2,3歳代 1位:転倒 2位:転落 3位:ぶつかる

その他に、切る・刺す、誤飲、はさむといった事故が多かったです。

子どもに起こりやすい事故を知って、安全・安心な環境を整えていきましょう!

※メンバーがイベント等でお話いたします!ご希望の際はお声掛けください!

太白区保健福祉センター 家庭健康課

住所/仙台市太白区長町南3丁目1-15

電話/022-247-1111

ねんね～よちよち期 (0歳～1歳6か月頃)

ホッ

と安心・安全な
環境を!



からだもころも大きく成長し、1歳頃には産まれた時から身長は約1.5倍、体重は約3倍にもなります。0歳代は転落が多く、行動範囲が広がってくると転倒ややけど、誤飲が増えてきます。身近なところから、安心な環境を目指して事故予防に取り組んでいきましょう。

太白区家庭健康課母子保健係

乳幼児の事故予防ワーキングメンバー作成

危険箇所を確認の巻



- ① 鍋やポットのお湯、ヘアアイロンでやけど → 事故体験談1へ
- ② たばこの誤飲 → 事故体験談2へ
- ③ お風呂場での転倒や溺水 → 事故体験談3へ
- ④ 靴の選び方 → 事故体験談4へ
- ⑤ ハイローチェアからの転落
→ハイローチェアのベルトを使用せずに転落したという事故が多くあります。ハイローチェアに限らず、安全基準を満たしている製品は使用方法を守った上で安全が確保されます。いつも大丈夫だからと油断せずに使用方法を守り、安全に使いましょう。
- ⑥ ソファーからの転落 → 事故体験談5へ

- ⑦ 枕や布団での窒息、ベビーベッドからの転落
→柔らかすぎる布団は顔が埋まってしまい、口や鼻が塞がれてしまいます。敷布団は固めのものを準備しましょう。また、ベッド柵は必ず一番上まであげて使いましょう。
- ⑧ 床に落ちているものを誤飲
→手にしたものは何でも口にもっていく時期です。乳幼児の口径は39mm前後、飲み込める長さは約51mmと言われています。子ども目線で危険なものはないか確認しましょう。
- ⑨ 階段からの転落
→自由に上り下りができないよう柵をつけましょう。一緒に上り下りする際は、子どもの手を取るか、横から下側を歩きましょう。
- ⑩ 浴室に子どもが簡単に入出入りできる
→鍵をつけ、自由に子どもが入り出できないようにしましょう。浴槽内に水を溜めたままにせず、蓋はたわみにくくしっかりしたものを選びましょう。
- ⑪ 洗濯機の中で遊ぶ
→使用しない時は蓋を閉めロックをかけたり、水を溜めたままにしないようにしましょう。また、ドラム式洗濯機は蓋が子どもの手に届きやすい位置にあります。中に入って閉じ込められないよう注意しましょう。
- ⑫ 子どもの手の届くところに洗剤を置いている
→手の届かない範囲に置くようにしましょう。

他にも危険なことが
潜んでいるニャ。
子ども目線で家の中や外の
危険がないかみてみよう!



安全チェックの巻



ねんね期/項目	チェック欄
① フカフカの枕や布団は使用していない	
② ベッドの柵は必ず上げている	
③ ソファーの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことはない	
④ 赤ちゃんを抱いたまま熱い物を食べたり、飲んだりしない	
⑤ 入浴の際、蛇口から急に熱いお湯が出ることはない	
⑥ 赤ちゃんの周りにはポットや炊飯器を置いていない	
⑦ 赤ちゃんの周りに口の中に入るような小さなものは置いていない	
⑧ 赤ちゃんだけを置いて家を留守にすることはない	
⑨ 自動車に赤ちゃんを一人だけにおくことがない	
⑩ ベビー用品やおもちゃを購入するとき、デザインよりも安全性を重視している	

よちよち期/項目	チェック欄	
	1回目	2回目
① 子どもを1人で家や車に残さない	/	/
② 自動車に乗るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて乗せている		
③ 浴槽に水をためたままにしない		
④ 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置く		
⑤ タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置く		
⑥ ピーナッツやあめ玉などは手の届かないところに置く		
⑦ 暖房用具(ストーブ・こたつなど)の熱が直接触れないようにしている		
⑧ ポットや炊飯器は子どもの手の届かないところに置く		
⑨ ベビー用品やおもちゃを購入するとき、デザインよりも安全性を重視している		
⑩ 階段に転落防止用の柵を取り付けている		

健やか親子21 事故防止対策より

トイレトペーパーの芯と
ほぼ一緒なんだニャ!

この円の中を通る物は
子どもの口に入ります
(直径39mm)
この円より小さいものは
手の届くところに
置かないように
注意しましょう



子どもをそっと見守るネコ忍者